

平成 23 年度「山形学」地域連携講座

志立だがしや楽校 1 日目

会場：えくぼプラザ（山形県南陽市）

日時：2011 年 8 月 21 日（日）10:00～12:30

主催：志立だがしや楽校運営委員会

共催：財団法人山形県生涯学習文化財団

2011 年 8 月 21 日（日曜日）雨のち小雨 夜曇り

【志立だがしや楽校・1 日目：山形県南陽市発】

平成 23 年度「山形学」地域連携講座“志立だがしや楽校”が始まりました。

昨年に続いての開講ですが、昨年は“南陽志立だがしや楽校”と称していたのに対し、今年度は“志立だがしや楽校”としました。これは、昨年度も、南陽市だけでなく、長井市や川西町から参加者があったことや、南陽市の事業ではなく、有志による運営委員会が主催していることなどの背景によるものです。

ほかに昨年と異なるのは、昨年は対象者を「高校生～20 代」としたのに対し、今年度は「高校生～青年」と広げました。実際、今年度の参加者には 30 代後半の方がおられます。

それから昨年は「生き方づくり」をテーマにしましたが、今年度は「山形にこだわって『あそぶ』『まなぶ』『いきる』」をテーマにしています。

1 日目の参加者は 13 名。この内昨年の“南陽志立だがしや楽校”に参加された人は 5 名です。

1 日目のこの日は、中間に松田道雄さん（だがしや楽校発案者、東北芸術工科大学教授）の講演を挟んで、自己紹介が行われました。

昨年は、参加者同士で互いのことを知り合うためにも大切な自己紹介の時間があまりなく、「これで良いのかな？」と感じたこともありました。もちろん、実際には参加者自身がそれぞれに交流していましたので、講座の中での自己紹介は要らないという考え方もあるでしょう。しかし、人数にもよりますが、一通りみんなで互いのことを知り合うことは良いことかと思えます。

特にきょうの自己紹介は、主催者事務局・嶋貫さん（南陽市）の思い入れが込められた印象深

いものになりました。

講座では、はじめに嶋貫さんのコーディネートで自己紹介が行われました。そこで感じたのは嶋貫さんの参加者一人ひとりに対する思いやりです。これをなんと伝えたら良いのでしょうか。本当に感動しました。



“だがしや楽校”とは『自分みせ』です。一人ひとりが持っているものを活かすことです。そのことを理解されている嶋貫さんは、参加者一人ひとりが持っているものを紹介されました。これから始まる講座で活かされる参加者一人ひとりが持っているものを引き出すためのサポートをされているのです。

このように、自己紹介では、参加者自身の自己紹介に加えて、嶋貫さんからの紹介もあったのです。

この場面を拝見し、志立だがしや楽校では、松田さん、片桐隆嗣さん（だがしや楽校実践・普及、東北芸術工科大学教授）に加えて、嶋貫さんも講師役になっていると感じました。

もっとも、松田さんも講演の中で説明していたように、“だがしや楽校”では、みんなが先生であり、みんなが生徒です。

続いて、片桐さんから、自身の“だがしや楽校”との出会いから、そこで感じた“だがしや楽校”の魅力について話されました。

その後、松田さんから講演していただきました。



まず、松田さんは、参加者に対して「だがしや楽校のイメージ」を尋ねました。参加者からは「学び合う」「話し合う」「人とつながる」「交流」「自分が楽しめる」などの答えが返ってきました。

続いて、松田さんの講演内容です。

自分の人生に対して満足することができないことを知った時に、「いろんな経験をしたい、いろんなことをしたい」という思いで始めたことです。それは、利己主義・自己主義におけるバランス社会の中で、主体性をもって何かできないか、という思いです。

駄菓子屋の研究では、駄菓子屋が持っている教育的意義などを自分の研究として論文にし、本にして出版しました。



駄菓子屋の研究で浮かんだアイデアから社会実験として始めたのが“だがしや楽校”です。“だがしや楽校”は研究にはしませんでした。

社会には、組織・役員・立場といった“しがらみ”があります。遊びに“しがらみ”はありません。そこで、“しがらみ”を取り外し、本当に対等な付き合いができる場として、はじめはボランティアでやりました。

近所にチラシを配り、お金を介在せず、互いに持ち味を出そう、ということでやりました。

小さな空間に対して、なるべく多様にしました。〇〇教室だけではなく、体育系・文化系・芸

術系など、何でもありでやりました。有りようでないような場、自分たちで勝手にできる場になりました。

今年、山形に戻り、ゼロからの活動を展開しています。「活動をつくること」専念しています。だから、最終的には提案のみにしています。そのために、初対面に人へメールを送りながら、誰とでも付き合えるようにしています。

子どもの感覚で新しいものを生み出すことにしています。だから、すでに出来上がったものに対しての関心はありません。

社会は変わるべきです。だから、この講座の内容も、ここにいる皆さんの能力を最大限に活かすために、みんなで自由に変えていきましょう。

松田さんの話は、数え切れないほどお聞きしていますが、毎回新たな発見があります。今回は山形に戻ってこられた着想家としても思いをお聞きすることができました。

また、“しがらみ”という言葉は何回も使われ、組織とか肩書きにこだわらない松田さんの思いを感じる事ができました。組織活動であるNPOに対して一線を画している松田さんらしい講演です。

この松田さんの話については、人によっていろいろ感じると思いますが、それぞれの人が持っている持ち味を活かすことである“だがしや楽校”です。感じ方も自由で良いのです。

講演の後は、ゼッケンづくりです。ゼッケンによる自己紹介です。名前のほかに、好きなこと、できること、得意なこと、思っていることなどを書きました。



そして、ここからが、この日一番のお楽しみです。

南陽市青年教育グループ“米部”（こめぶ）が生産したお米“あまい”の試食であります。

この日の参加者のひとりで“米部”メンバーである星さんから紹介がありました。

“米部”は、毎日食べるお米を、もっと美味しく！楽しく！し、お米で幸せを実感することを目的に、お米農家・くだもの農家・うし農家・会社員など青年5名で活動しています。南陽市まちづくりコンペティションでも3位を獲得したほか、お米の食べ比べイベント、道ゆく人と一緒におむすびイベントを開催するなどの活動を行ってきました。

その“米部”が生み出し、栽培したのが“あまい”というお米です。“あまい”は、りんご堆肥と生りんごで栽培しました。田んぼにはエッセン酢も投入しました。



その名のとおり「あま〜い」恋心をくすぐることができるのか・・・！？

早速みんなでおにぎりにして試食です。私（山口）もいただきました。

もちもち感がある“つや姫”とは対照的です。あっさりした感じですが、特に甘さが強いわけではありませんが、ほんのりとした甘さを感じます。あっさりした甘さですので、食べやすい感じがします。これはこれで美味しいお米です。「若い人向きではないか」という感想もありました。

こんな感じで、試食しながら、参加者同士の交流が深まっていきました。

講座というと、講師の話の聴いたり、テーマに沿ってワークショップする、というイメージを持っていたある参加者の人は、この自由な雰囲気カルチャーショックだったようです。

でも、それを感じてもらえたということは、1日目としては良かったのではないかと、思います。

“志立だがしや楽校”では、来年2月まで全7回（プラス・オプション2回）のカリキュラムは一応出ていますが、内容は状況によって自由に展開するというので、今後がおおいに楽しみであります。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター